

研究課題 (テーマ)		第 35 回全国豊かな海づくり大会における、富山湾の微生物多様性に関する研究成果の展示	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	生物工学科	助教	高橋裕里香
研究結果の概要			
<p>射水市新湊において平成 27 年 10 月 24-25 日に開催された、第 35 回全国豊かな海づくり大会において、展示「神秘の海、富山湾の微生物多様性」と、実験教室「自分の DNA でネックレスを作ろう」を出展した。全国豊かな海づくり大会は、水産資源の維持培養と海の環境保全に対する意識の高揚を図るため、一年に一回行われる国民的行事である。大会式典には天皇・皇后両陛下も臨席することが慣例となっており、両陛下の 15 年ぶりの御来県となった。今年度の富山県大会では、昨年度の奈良大会の 3 万人を上回る、約 3 万 5 千人が参加・来場した。</p> <p>本予算で購入した富山湾の海底模型を展示し、本予算で解析した富山湾の微生物多様性を、合計 12 枚の A0 版パネルを使って、富山湾の地形や海流の特徴、サンプルを採取した調査航海の様子とともに説明した。調査航海は、平成 27 年 5 月に環境工学科の畠准教授が、長崎大学水産学部附属練習船「長崎丸」の共同利用プログラムを活用し、学生実習として実施したものであり、本学の研究だけでなく教育プログラム的一端も紹介できた。</p> <p>2 日間で延べ約 100 名の来場者に実験教室に参加して頂き、県大の広報資料も配布した。この際に配布したチラシによって、その後県大にて開催された秋季公開講座へ参加した方もいた。直接テント内の展示を見なかった来場者にも、テントの四隅に固定した県大ののぼり、立て看板は遠くからもよく見えたはずである。県大の存在を、富山県内はもちろん、全国的にもアピールすることにつながり、非常に大きな広報効果があったと思われる。展示の様子は開催後に富山県がまとめた「実績報告書」(フルカラー、全 96 ページ)の中にも掲載され、多くの参加者で賑わう実験教室の様子が写真入りで紹介されている。</p>			
			
今後の展開			
今後もこのような研究・教育の成果を発信する機会があれば、積極的に取り組みたい。			